

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2077 号

Incidence and risk factors of severe lacerations during forceps delivery in a single teaching hospital where simulation training is held annually

(鉗子分娩術の重度裂傷の頻度とリスクファクターについて；シミュレーショントレーニングを毎年施行している単一教育施設における検討)

佐野 靖子 (さの やすこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

近年、鉗子分娩における骨盤モデルを用いたシミュレーショントレーニングの有用性が報告されている。当院においても実際の診療での実施以前に鉗子分娩のシミュレーショントレーニングを行っている。鉗子分娩の代表的な母体合併症は重度裂傷(会陰第Ⅲ度、Ⅳ度裂傷)であり、これを低減させるために今回当院における鉗子分娩による重度裂傷の頻度とそのリスクファクターについて解析を行った。2010年から2015年までに当院で鉗子分娩を施行された正期産・単胎・頭位の857例を対象とし、重度裂傷の頻度を調べるとともに、症例を重度裂傷群とコントロール群に分け、重度裂傷のリスクファクター(母体因子、胎児因子、実施時所見)を診療録から抽出し解析した。解析には単変量および多変量解析を用い、95%の信頼区間からP値<0.05を有意とした。当院における重度裂傷の頻度は10.1%であった。重度裂傷群ではコントロール群に比べ有意に児の体重が重く、児頭降下度が高く、回旋異常の頻度、牽引回数が多かった。その一方、重度裂傷群では無痛分娩率は有意に低く、鉗子分娩の適応や術者の産婦人科専門医資格の有無は重度裂傷の頻度に影響はしなかった。当院の重度裂傷は他文献の報告より低く、シミュレーショントレーニングが有用であった可能性がある。また重度裂傷群での無痛分娩率が低かったことから、無痛分娩が裂傷に対し保護的に働いている可能性が示唆された。